

第3回滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会
議 事 概 要

日 時：平成22年2月23日（火）午後5時30分～午後6時55分

場 所：滋賀医科大学管理棟 3階 小会議室

出席者：別紙のとおり

議題

（1）平成21年度の取組結果および平成22年度の取組予定について

ア 平成21年度の取組結果について

・資料1に基づき、第2回の協議会で報告された平成21年度の拠点病院・県薬剤師会・県放射線技師会の取組内容についての確認がなされた。

・滋賀県看護協会より、資料2に基づき、がん拠点病院における看護の役割と機能に関する現状とニーズ調査の詳細な結果報告がなされた。

イ 平成22年度の取組予定について

・協議の結果、全般を通して「スタッフ不足の実状を更に掘り起こし、いかに連携して課題を前進させるか」が来年度への取組となることについて、出席者の賛同が得られた。

・県薬剤師会からは、薬剤師の情報の共有が最重要課題と捉えている。その観点から環境整備への取組を県薬剤師会として進めていくこととする。来年度はとくに高度医療の推進という中で地域拠点病院の病院薬剤師としてのあり方を検討することが表明された。

・なお、滋賀県として、県薬剤師会からの課題として挙げられたクリーンベンチ設置に関して、地域医療再生計画予算の枠組みでの予算的措置を講じる可能性があることを言及された。

・県放射線技師会は、来年度の取組として均てん化を考えると、現状では病院間に差があることは否めない。そのような観点から、放射線治療に関して放射線治療を実施している県内のどこの医療機関へ行っても同じ説明が受けられるよう技師会内で取り組むことが表明された。

- ・その他、以下の点について提案・問題提起がなされた。
 - ・診療支援のあり方をどうするかについて当部会で担当することは、地域連携部会や緩和ケア部会が担当している支援部分と重複せぬよう他部会とも調整する必要がある。
 - ・高度な先進医療の情報交換を行うことも診療支援と考えられる。
 - ・情報の共有化によって、均てん化に寄与する人材育成することも、医師の派遣調整につながると考えられる。実際、看護師間では種々の勉強会が実施されており、医師は様々な講演会・意見交換会等の中で情報は共有されていくものと考えられる。
 - ・拠点病院間の診療支援のあり方の課題を共有するという考えは、相互支援につながるものと考えられる。
 - ・他府県の医師派遣調整の状況を調査することも方策となる。
 - ・各機関との情報共有のための集会開催に必要な旅費等の費用は、部会主催のものについては各拠点病院の負担となっているが、予算措置の可能性はどうか。
 - ・なお、陪席の患者会からインフォームドコンセントに関し、必ずしも患者にとって十分に理解することができない場合があるのではないかと。滋賀県下のがん診療専門医の実数・実態を患者側が把握できる状態にはなっていないとの発言があった。この発言を踏まえ、診療の現場の実情として時間的制約などの克服すべき課題もあることから、拠点病院間で問題点を持ち寄っての検討会も今後の取組としたいとの意見が出された。

以上の協議を踏まえて、各機関、団体において来年度に向けたより具体的な診療支援の取組について持ち帰って検討いただき、メールで回答いただいた取組内容について平成22年度第1回診療支援部会において部会内でのコンセンサスを得て平成22年度の活動方針を決定することとなった。

(2) その他
なし

滋賀県がん診療連携協議会

第3回診療支援部会 出席者名簿

H22.2.23

	施設・団体名	所属・職名	氏名
部会長	滋賀医科大学医学部附属病院	消化器内科診療科長 (内科学講座 教授)	藤山 佳秀
副部会長	大津赤十字病院	副院長 (第一外科部長)	馬場 信雄
副部会長	成人病センター	消化器内科主任部長	水田 和彦
部会員	公立甲賀病院	顧問	井田 健
"	彦根市立病院	呼吸器科部長	林 栄一
"	市立長浜病院	副院長 (泌尿器科部長)	村中 幸二
"	社団法人滋賀県医師会	草津栗東医師会 副会長	中野 悦次
"	社団法人滋賀県薬剤師会	(大津赤十字病院)	富田 国男
"	社団法人滋賀県看護協会	(滋賀医大附属病院)	服部 聖子
"	社団法人滋賀県放射線技師会	副会長 (成人病センター)	高橋 昌章
"	滋賀県健康福祉部健康推進課	健康づくり支援室 主幹	黒橋 真奈美
"	成人病センター	経営企画室 主査	沼波 輝
部会事務局	滋賀医科大学 医療サービス課	(事務局担当：課長補佐 今堀 道明)	

網掛けは、欠席者